

16. 出店のことで話す [1]

001A : コンニチワー。Bサン イタ。
こんにちは。 Bさん いる？

002B : オーイ イダヨー。ナンダ メズラシーナヤ。
おい いるよ。 なんだ 珍しいなあ。

003A : メズラシーネー。イソガシクナッテクンデナイ ナツマツリデ。
珍しいねえ。 忙しくなってくるんじゃない 夏祭りで。

004B : ンダナー。(A ウーン) モー ソロソロ セズダガラ。
そうだな。(A うん) もう そろそろ 季節だから。

005A : セズダネー。
季節だね。

006B : ウン ソロソロ ジュンビシナクテネンデネノ。
うん そろそろ 準備しなくちゃいけないんじゃないの。

007A : コンド ワタシタチ カキゴーリ ヤンダトネー。
今度 私たち かき氷 やるんだとね。

008B : ア ホーカ。
あ そうか。

009A : ンダヨ。
そうだよ。

010B : ンダ ンダッタッタナヤ (A ウン) ワシェッタナヤ。
そうだ そうだったなあ (A うん) 忘れていたなあ。

011A : Bサン ナンベンモ ヤッテッカラ イーゲンド ワタシ ハジメテダガラサー。
Bさん 何回も やってるから いいけれど 私 初めてだからさ。

ナンダカ ダンドリー キギサ キタノ。オシエデモラウツチャ。
なんだか 段取り 聞きに 来たの。教えてもらおうよ。

012B : {舌打ち} ア ホーカ。ウン オレモ アンマリワ ヤッタコト
{舌打ち} あ そうか。うーん 私も あんまりは やったこと

ネーンダケンド マ ミヨーミマネデ デキッカラ、ウン。アノー
ないんだけれど ま 見よう見まねで できるから、うん。あの

アイッタツチャナ、キカイワ ネー、アノ コーチャーナイカイサ ネーヨナ。
あれだよな、 機械は ない、あの この町内会に ないよな。

カリナクテネナ。
借りなきやいけないな。

013A : ウーン ナイ。(B ウン) ンーダベネ。
うーん ない。(B うん) そうだろうね。

014B : ウン。マー ホイズワ イマ リースヤ アッカラ。ソコ タノモー。
うん。まあ そいつは 今 リース屋 あるから。そこ 頼もう。

015A : ハイハイ。
はいはい。

016B : ウン。(A ウン) ホーンデ アレワネー
うん。(A うん) それで あれはね

017A : アト コーリ。
あと 氷？

018B : ウンウン。アト コーリドカ。(A ウン) ウン。アド シロップトカ
うんうん。あと 氷とか。(A うん) うん。あと シロップとか

カエバ イツチャ。ウン。
買えば いいよ。うん。

019A : ダヨネ。
だよね。

020B : ウン。 ホーンデサ (A アー ウン) アノー オ アイッタッチャ、
うん。 それでさ (A あー うん) あの × あれだよ、

オナゴヒタチワ イーガラ アノー ナンダ
女の人たちは いいから あの なんだ

021A : オキヤクサンニ ダスヤクダネ。
お客さんに 出す役だね。

022B : ウ ウリウリ ウン。ウリガタノホーダケ スレバ イーンダナ。(A ウン)
× ××× うん。売り方の方だけ すれば いいんだな。(A うん)

ウーン。ホンデ オトコダカラ オレ オトコデデ チカイマワシ スッカ。
うん。それで 男だから 私 男手で 機械回し するか。

023A : ンーダネ。ホカノヒトモ インダッチャ、オトコノヒトモ。
そうだね。他の人も いるんだよね、男の人も。

024B : アー ミンナ テツダッテ モラッチャナヤ。
あー みんな 手伝って もらおうなあ。

025A : ンーダッチャネー。(B ウン) マサカ ヒトリデ ズート ヤッテンノモ
そうだよね。(B うん) まさか 一人で ずっと やってんのも

ラクデナイスぺ。
楽じゃないでしょう。

026B : ンダッチャ。(A ウン) マー ミンナデ ヤルヨーニ タノムッチャナー。
そうだよ。(A うん) まあ 皆で やるように 頼もうな。

ウン。
うん。

027A : ンジャ ワタシラワ オキヤクサンニ デキアガッタノー シロップ
それじゃ 私たちは お客さんに できあがったのを シロップ

カケタリシテ、(B ウン) ヤッテ オーカネ イタダクッテユーヤクワリデ
かけたりして、(B うん) やって お金 いただくっていう役割で

イスカ。

いいですか。

028B : ンダネ。カネー (A ウン) トルヒトト (A ウン) ダスヒトト (A ウン)
そうだね。金 (A うん) 取る人と (A うん) 出す人と (A うん)

ブンタンシタラ イッチャ。

分担したら いいよ。

029A : ンダネ。 (B ウン) ジャ オモニ オンナノヒト ソンナフニ スルヨーニ。
そうだね。 (B うん) じゃ 主に 女の人 そんな風に するように。

030B : ウン ソイナグシテ。
うん そのようにして。

031A : ウン (B ウン) アトノヒトニ ユッテオッカラ。
うん (B うん) あとの人に 言うておくから。

032B : ウン。アノネ {息を吸う音} ヒトズデ モーケッコド ネーヨーヌ。ン
うん。あのね {息を吸う音} 一発で 儲けること ないように。うん

マ シロップ バイグライ カケデ。(A ア ソッカ) ホスツト
まあ シロップ 倍ぐらい かけて。(A あ そうか) そうすると

ヨロコブガラ。ウン。

喜ぶから。うん。

033A : デモ アカジニ ナッタラ タイヘンダヨ。
でも 赤字に なったら 大変だよ。

034B : アカジ ナンネーテードニサー。
赤字 ならない程度にさ。

035A : アー ソースカ。 ハイ。
あー そうですか。 はい。

036B : ウン。ソノヘンワ オンナノヒトワ フトコロモ アノ サイフモジダカラ、
うん。その辺は 女の方は 懐も あの 財布持ちだから、

ワカップペガラ、 タノムガラ。
わかるだろうから、頼むから。

037A : ア ンジャ ナントカ ン チョーナイカイノオマツリダカラネ
あ それじゃ なんとか × 町内会のお祭りだからね

ヤリマシヨ。
やりましょう。

038B : フンダネ。ハイ テンチダケダナ スンペワナ。
そうだね。はい 天気だけだな 心配はな。

039A : ホントダネ。ハイ。ドーモネー。ハイ。
本当だね。 はい。どうもね。 はい。

040B : ハイ。
はい。

[1] 16. 出店のことで話す

話題にしやすいものとして、話者がかき氷の出店を手伝うという設定をした。